

ループリックが結ぶ教育接続(12): 教師の学習 (能力開発) を促すループリック

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード: 作成者: 杉森, 公一 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/43331

教師の学習（能力開発）を促すルーブリック

金沢大学 大学教育開発・支援センター准教授 杉森 公一

教授者の能力開発の視点

大学教員の能力開発のために、日本の大学ではファカルティ・ディベロップメント（以下、FD）と総称される組織的な取り組みを進めることを法令上求められている。

平成十一年からは大学設置基準上の努力義務であったFDは、平成二十年の改正により義務規定「大学は、当該大学の授業の内容及び方法を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする」へ変更された。基準の文章上では授業改善ⅡFDと捉えることができるが、ファカルティとは教授団や教員組織のことであり、そのディベロップメントが本来ターゲットにしているものは、教育・研究・管理・社会貢献という大学教員に求められる四つの義務を達成するための専門的能力であった。授業改善を「狭義のFD」、幅広い能力開発を「広義のFD」やプロフェッショナル・

ディベロップメント（PD）と呼ぶこともある。

広義のFDやPDに対応する大学教員の役割については、アメリカの高等教育研究者であるE・L・ボイヤーは著書『大学教授職の使命』（一九九〇、一九九六邦訳）において、研究重視の学者像を乗り越えた「学識（Scholarship）」による再定義に大きな影響を受けている。「学者の仕事はまた、調査研究から一歩後退し、関連を追及し、理論と実践との間に橋渡しをし、知識を効果的に学生に伝達することをも意味する」（邦訳三九頁）ことから、発見の学識・統合の学識・応用の学識・教育の学識の四機能があるとされる。

ボイヤーは、研究活動（Ⅱたゆまぬ勤勉と困難な研究）が優れた教育を支え、また教育活動（Ⅰ学生との知的創造の協同作業を通じた批判的・創造的思考者の育成）が知識の連続性と学者自身の成長を方向付ける、という

両義を強調する。物理学者ロバート・オッペンハイマーの一九五四年の講演から「科学の専門分化は、危険に満ちているし、残酷にも浪費が多い。……科学者は単に真理を発見し、それを自分の同僚に伝達するだけでなく、自分が教えること、すなわち新たな知識について最も正直で最もわかりやすい説明をすべての学習者に対して行おうと努力することこそ、彼の役割にとってふさわしいものである」の引用が、教師としての大学教員の役割を物語る。

筆者（杉森）のすべての執筆稿では、四つの学識の中でも「教育の学識」面を備える大学教員の役割には断りなく「教師」を用いている。

FD活動を促進する教育開発の自己評価ルーブリック

教育の学識を必要とする教師の能力開発の

ためには、大学の学内外で行われるFD研修

が利用されることが主であろう。連載第一〇回で示した「ルーブリックの入れ子構造」にあるように、科目（一つの授業）とコース（学科カリキュラム）で用いられるルーブリックに隣接する位置に、教育プログラム全体を評価するルーブリックと、学生が作成する学修ポートフォリオの評価ルーブリック、教師が作成する教育ポートフォリオの評価ルーブリックが配置できる。ポートフォリオは、学識を支え振り返りするための教育業績の自己申告書であり、ボイヤーの前掲書では種々の学識から選んで展開される「教員が様々な手段で自分の活動を提示することを促す手法」と定義づけられている。

教育に関する教育ポートフォリオには、教育哲学、授業に関する実践記録と自己評価・同僚評価、学生による授業評価を含み、ルーブリックによってそれら記述の到達度を確認し振り返ることができる。単発のFD研修会だけでは、個々の教員の授業実践の振り返りまでを促すことにはならず、教育の理念・方法・評価に立ち入ることなしには教師のキャリア発達に資することは困難であろう。

しかしながら、筆者が各地でのFD研修を担当する際には、教育開発の能力に関連づけられたFD活動の自己評価のルーブリック（図）を示すようにしている。そのFD研修会の受講を通して、実践者・支援者レベルに到達するための評価基準を共有することから段階を踏んで、研修後の行動変容につながることを

期待している。

大学教師を結ぶルーブリック作成ワークショップ

教師を対象にしたルーブリックの作成方法を学ぶワークショップは、参加者同士の共同作業を通して授業の振り返りを促す場である。授業におけるルーブリックの効用に気づいてからの一年間、本連載も含めた啓発・普及活動に力を注ぎ、講演・ワークショップを引き受ける機会が多くなっている。毎回感銘を受けるのは、ルーブリック作成のプロセスを通じた、大学・短大・専門学校教師たち（場合によっては、多様な学問分野、規模も背景も異なる教育機関が一同に会している）の学びあいの豊かさである。ルーブリックの評価基準を丁寧に書くということは、過去の授業実践を深く掘り下げ、学生たちの顔と提出された課題をリアルに思い浮かべるといふ省察的な行為となる。一科目の授業デザインをカリキュラム上の位置づけから切り離すことが出来ないばかりか、自らの教育哲学と向き合わざるを得ない。

ルーブリック作成ワークショップでは、互いのルーブリックを相互評価することを通して、教育に期待する価値、理想の学生の姿、学修目標と学習成果が再発見される。よいルーブリックのもつ特徴を議論することで、すぐれた授業実践のための方法論への関心も呼び起こされる。ルーブリックは、同僚の力を借りながら授業改善を進める強力なツールであ

	教育開発の支援者 ファカルティ・デベロッパー (レベル3)	教育開発の実践者 アクティブ・ラーナー (レベル2)	教育開発の参加者 新任教員 (レベル1)
①大学教育についての「気づき」が共有できる	自分の目の前にいる学生に対して、講義・学生支援を通して、学生がどのような向きを感じているか、自分の言葉で明らかにできる。	講義・学生支援を通して、学生の変化や成長を実感できる。	講義・学生支援を通じた、学生の成長が困難であると感じ、教育改善の手立てが見当たらない。
②5年後の教育開発のイメージが持てる	キーワードをもとに、教育開発に必要なFDツール（ディプロマポリシー、シラバス、ルーブリック）を説明でき活用できる。	大学改革に必要なFDツールのいくつかについて理解できる。	FDツールについて必要性がないと考え、教育開発のイメージを持たない。
③学内外の現状を分析・整理し、理解できる	中教審答申・文科省施策や内外の状況から、大学にいま求められている「学習の主体」の転換、授業手法の開発の位置づけを説明できる。	「学習の主体」の転換について理解し、授業手法の開発の必要性が分かる。	「学習の主体」は講義を行う教員にあるため、授業開発や研究を教員個人で十分行うことができると考える。
④学生の学びのための教育開発の支援者となる	カリキュラムにおける科目の学修目標を設定し、他科目との関連性を説明でき、他教員と連携できる。	自分の科目の学修目標を設定し、学生の到達度を測ることができる。	自分の科目の教育目的を中心に講義を行い、学生の学修目標と到達度を重視しない。

図 FD活動の自己評価のルーブリック（試案）

ると言え、教師同士が結ばれた学びあいのネットワークは教育現場を大きく変革させる原動力になりえる。大学コンソーシアム石川での教職員共同FD研修として試行しているルーブリック研修会、若手教員授業研究会などが、私たちの連携の実践の場である。

能力開発ルーブリックの多様な展開

教職員の能力開発ルーブリックは、様々な領域でのFD活動の道標となりえる。佐藤浩章らによる全国の大学のFDプログラムを俯瞰する体系図「FDマップ」は、全国一二大学の一二FDプログラムを収集して作成された。ルーブリックに見立てると、三つの観点・授業・教授法（ミクロ）、カリキュラム（ミドル）、組織（マクロ）、四つの尺度・導入、基本、応用、支援を持っており、各大学がFD活動を通じた教職員の能力開発を容易に針路づけることができる。また、国立教育政策研究所の提案する「新任教員FDのための規準枠組み」は、英国の先行事例をもとに作成されたもので、大学コミュニティについての理解、授業のデザイン、教育の実践、成績の評価・フィードバック、教育活動の自己改善・キャリア開発・教育開発の五つの観点が示されている。

さらに近年では、様々な領域への展開が見られる。看護学教育研究共同利用拠点は、これらを参照しながら看護系大学教員として必要な能力を「FDマザーマップ」として作成している。経済産業省は、インターシッ

普及のための専門人材に必要な実践的能力を、役割（対企業、対学生、対大学）を観点に置いて能力開発ルーブリックとして示している。これらの動向が示すように、社会のニーズに応じて、教育者の教育能力開発への対応が急速に教育機関等に求められるのである。ただし、ルーブリックは評価基準を内化するため、便利な「ツール」であること、その評価は最終目的ではないことを十分に留意しなくてはならないだろう。

△参考文献△

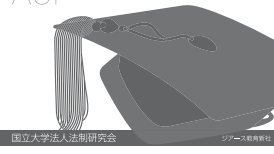
- D. Stevens and A. Levi (2013) "Introduction to Rubrics" Stylus, 2nd edition.
 スティーブンス&レヴィ、佐藤浩章 監訳（二〇一四）『大学教員のためのルーブリック評価入門』玉川大学出版部
 ボイヤー、有本章 訳（一九九六）『大学教授職の使命 スカラシップ再考』玉川大学出版部
 佐藤浩章、長澤多代、中島英博、稲垣由紀、川島啓一（二〇〇九）「FDプログラムの体系化を目的としたFDマップの開発」大学教育学会誌、三一巻、一三六―一四四頁
 加藤かおり（二〇一〇）「大学教員の教育力向上のための基準枠組み」国立教育政策研究所紀要、一三九集、三七―四八頁
 看護学教育研究共同利用拠点「FDマザーマップ・支援データベース」<http://fd.np-portal.com/>
 経済産業省（二〇一四）「教育的効果の高いインターシッ



好評発売中!!

Kommentar 国立大学法人法 コンメンタール

National
University
Corporation
Act



国立大学法人法制研究会 編著
 A5判/710頁
 定価 本体 4,700円+税

大学の自律性を踏まえた国立大学法人の特殊性を中心に、基本的なロジックと国会答弁等のエビデンスを端的かつ骨太に解説。「文部科学教育通信」誌に平成二十年八月号から平成二十三年一月号まで計五五回連載されたものを、今回改めて全体的に見直し、新たに概説や参考資料等を加え、資料としての充実と便宜を図った。

特色GPPのすべて 大学教育改革の起動 (JUA選書第14巻)

編川正吉 小笠原正明 編/財団法人大学基準協会 監修
 A5判/464頁 4,095円+税

質保証時代の高等教育(上)経営・政策編

山本眞一 著
 B6判/332頁 2,300円+税

質保証時代の高等教育(下)教育・研究編

山本眞一 著
 B6判/362頁 2,300円+税

データで見る 大学財政の基礎知識 3訂版

合田隆史 杉野剛 藤原誠 著
 A5判/188頁 1,800円+税

障害学生支援入門 —誰もが輝くキャンパスを—

鳥山由子 竹田一則 編
 B5判/170頁 1,800円+税

テキスト教育制度・教育法規「改訂版」

霜鳥秋則 著
 A5判/278頁 2,200円+税